



学校長だより

No. 3 (平成 29 年 7 月 4 日)

七夕の 逢わぬ心や 雨中天



6月7日に梅雨入りが報じられてからというもの、今年は「あー憂鬱な雨の季節がきた」と感じるものが少なく、逆にもっと降らないと水不足が心配だなんて身勝手ですね。自然は思惑どおりにはいかないものです。例年に比べしのぎやすいのはいいのですが、プール開きをしたものの、水温、気温ともに入水基準を満たさない日が多いなんて言っているうちに、あのガラガラとした南国土佐の日差しがやってくるのでしょうか。

さて、気がつけば7月、1学期も残り少なくなりました。小さな台風3号がこちらを窺っているようです。年間降水量全国トップを争うほど雨量の多い高知県、これから災害に気を付ける季節となります。45年前に起きたあの繁藤災害は7月5日のことでした。「災害は忘れられたころ来る」とは、本県にゆかりの深い寺田寅彦の遺した格言と言われています。気を引き締めて1学期を締めくくりたいと思います。

交流の推進！



共生社会の実現に向け、障害のある人と障害のない人が共に学び、ふれあう機会を積極的に推進することが求められています。本校・分校では近隣の小中学校との「学校間交流」、住んでいる地域の小中学校との「居住地校交流」を推進しています。また、本校高等部は高知商業高校、寄宿舎は春野高校との交流も行っています。先日行われた本校中学部と戸波中学校との交流では、全員でボッチャ競技に親しみました。その中の一コマです。本校の生徒が投じた一球が、圧倒的不利な形勢を覆す大逆転のショットとなりました。これには皆が驚き、一瞬の静寂の後、大きな歓声と拍手が起こりました。

障害の有無に関係なく参加でき、障害の有無に関係なく誰もが活躍できる、まさに、共生社会がめざすものがこのボッチャ競技に凝縮されていることと、この競技の素晴らしさを再確認したのでした。

本校から県代表3名選出の快挙！

今年度本校分校では、スポーツの振興を教育の柱の一つに掲げています。5月28日には春野総合運動競技場で全国大会の予選を兼ね、県障害者スポーツ大会が開催され、本校から8名がエントリーし、好成績をあげたことはすでにお伝えしました。

そして、なんと、好成績を挙げた3名の生徒が全国大会(愛媛大会)に、選出されるという快挙を達成しました。1名は昨年全国で銀メダルを獲得し、連年の選出となりNo1をめざします。初出場の2名も上位入賞が期待されています。どうかみなさん激励と応援をよろしくお願いします。

<選手紹介>

名 前	学部	出場種目
竹村 萌さん	中	陸上(車いす短距離)
北川 夏帆さん	高	陸上(スラローム)
松尾 美咲さん	高	陸上(車いす短距離)



全国特別支援学校長会速報！

6月29・30日の両日、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された全国特別支援学校長研究大会に参加してまいりました。本会には全国から特別支援学校の校長約900名が集結し、インクルーシブ教育システム構築や学校経営の在り方について研究協議を行うとともに、最新の国の動向の情報などを入手してまいりました。本会には今何かと話題となっている文部科学省から義家副大臣が来賓として参加され、障害のある子どもたちが、学校教育だけでなく、生涯にわたって人生を豊かにする施策に取り組んでいることを熱く語られました。また、中四P総会で来賓及び講師として高知にお招きした分藤調査官とも再会しました。ご講演の中で、医療的ケアを要する児童生徒について、保護者の付き添いの在り方や登下校の経費の負担軽減など、国が本格的に検討していることが新たな情報として提供されました。

さて、本研究大会では、例年、全国から数校が特色ある取組を発表することになっておりますが、今年度、災害対策・危機管理のくじを引いてしまい、本校の防災の取組を全国に発信してきました。大きな地震による災害が立て続けに起こっている今日、災害対策はどの学校も課題のようで、安全・安心な学校づくりの面で、本校は一步進んだ取組を行っていることを確認することができました。

